

こまごめ
駒込ダム建設事業の検証に係る検討

結果報告書 正誤表

平成 23 年 8 月

青 森 県

章	ページ	箇所	誤	正																																								
2	2-9	表-2.2.1 主な洪水被害の実績	<table><caption>表－2.2.1 主な洪水被害の実績</caption><tr><th>洪水年月</th><th>要 因</th><th>被害額(百万円)</th><th>被害状況</th></tr><tr><td>昭和 44 年 8 月 23～25 日</td><td>台風 9 号</td><td>9,903</td><td>浸水面積 1,645ha 床上浸水 4,521 戸 床下浸水 3,626 戸</td></tr><tr><td>昭和 52 年 8 月 4～6 日</td><td>低気圧</td><td>1,914</td><td>浸水面積 46ha 床上浸水 36 戸 床下浸水 219 戸</td></tr><tr><td>平成 2 年 10 月 25～27 日</td><td>豪 雨</td><td>78</td><td>—</td></tr><tr><td>平成 11 年 10 月 27～28 日</td><td>豪 雨</td><td>24</td><td>浸水面積 1.1ha 床上浸水 8 戸 床下浸水 1 戸</td></tr></table>	洪水年月	要 因	被害額(百万円)	被害状況	昭和 44 年 8 月 23～25 日	台風 9 号	9,903	浸水面積 1,645ha 床上浸水 4,521 戸 床下浸水 3,626 戸	昭和 52 年 8 月 4～6 日	低気圧	1,914	浸水面積 46ha 床上浸水 36 戸 床下浸水 219 戸	平成 2 年 10 月 25～27 日	豪 雨	78	—	平成 11 年 10 月 27～28 日	豪 雨	24	浸水面積 1.1ha 床上浸水 8 戸 床下浸水 1 戸	<table><caption>表－2.2.1 <u>近年</u>の主な洪水被害の実績</caption><tr><th>洪水年月</th><th>要 因</th><th>被害額(百万円)</th><th>被害状況</th></tr><tr><td>昭和 44 年 8 月 23～25 日</td><td>台風 9 号</td><td>9,903</td><td>浸水面積 1,645ha 床上浸水 4,521 戸 床下浸水 3,626 戸</td></tr><tr><td>昭和 52 年 8 月 4～6 日</td><td>低気圧</td><td>1,914</td><td>浸水面積 46ha 床上浸水 36 戸 床下浸水 219 戸</td></tr><tr><td>平成 2 年 10 月 25～27 日</td><td>豪 雨</td><td>78</td><td>—</td></tr><tr><td>平成 11 年 10 月 27～28 日</td><td>豪 雨</td><td>24</td><td>浸水面積 1.1ha 床上浸水 8 戸 床下浸水 1 戸</td></tr></table> 出典：水害統計	洪水年月	要 因	被害額(百万円)	被害状況	昭和 44 年 8 月 23～25 日	台風 9 号	9,903	浸水面積 1,645ha 床上浸水 4,521 戸 床下浸水 3,626 戸	昭和 52 年 8 月 4～6 日	低気圧	1,914	浸水面積 46ha 床上浸水 36 戸 床下浸水 219 戸	平成 2 年 10 月 25～27 日	豪 雨	78	—	平成 11 年 10 月 27～28 日	豪 雨	24	浸水面積 1.1ha 床上浸水 8 戸 床下浸水 1 戸
洪水年月	要 因	被害額(百万円)	被害状況																																									
昭和 44 年 8 月 23～25 日	台風 9 号	9,903	浸水面積 1,645ha 床上浸水 4,521 戸 床下浸水 3,626 戸																																									
昭和 52 年 8 月 4～6 日	低気圧	1,914	浸水面積 46ha 床上浸水 36 戸 床下浸水 219 戸																																									
平成 2 年 10 月 25～27 日	豪 雨	78	—																																									
平成 11 年 10 月 27～28 日	豪 雨	24	浸水面積 1.1ha 床上浸水 8 戸 床下浸水 1 戸																																									
洪水年月	要 因	被害額(百万円)	被害状況																																									
昭和 44 年 8 月 23～25 日	台風 9 号	9,903	浸水面積 1,645ha 床上浸水 4,521 戸 床下浸水 3,626 戸																																									
昭和 52 年 8 月 4～6 日	低気圧	1,914	浸水面積 46ha 床上浸水 36 戸 床下浸水 219 戸																																									
平成 2 年 10 月 25～27 日	豪 雨	78	—																																									
平成 11 年 10 月 27～28 日	豪 雨	24	浸水面積 1.1ha 床上浸水 8 戸 床下浸水 1 戸																																									
2	2-11	(2) 治水事業の沿革 下から 4 行目	堤川本川及び駒込川については、平成 3 年度までに <u>当初計画区間の整備を終えている</u> 。 また、横内川については、堤川への合流点から遊水地までの区間を終え、合子沢川については、横内川への付け替えと北野尻橋までの改修を終えている。	堤川本川及び駒込川については、平成 3 年度までに <u>堤川広域基幹河川改修事業の当初計画区間の整備を終えている</u> （堤川工区：計画高水 920m ³ /s、駒込川工区：計画高水 480m ³ /s）。 また、横内川については、堤川への合流点から遊水地までの区間を終え、合子沢川については、横内川への付け替えと北野尻橋までの改修を終えている。																																								
2	2-12	図-2.2.2 河川改修実施状況																																										
4	4-5	4.1.2 計画雨量 14 行目	この結果、データ追加後の青森観測所 1/100 年確率雨量は <u>193.7mm/24hr</u> となり、流域平均雨量と青森観測所の相関係数は R=1.1672 となり、甲田橋基準点での計画 24 時間雨量は 230.3mm/24hr となった。	この結果、データ追加後の青森観測所 1/100 年確率雨量は <u>197.3mm/24hr</u> となり、流域平均雨量と青森観測所の相関係数は R=1.1672 となり、甲田橋基準点での計画 24 時間雨量は 230.3mm/24hr となった。																																								

章	ページ	箇所	誤	正																
4	4-7	4.1.3 近年の洪水と基本高水流量	(1) 近年の実績降雨 現計画における検討対象降雨波形は、昭和 33 年から平成 11 年までの甲田橋流域平均雨量（24 時間降雨データ）から、概ね 100mm 以上の降雨を抽出し、実績雨量を計画 24 時間雨量 230.2mm に引き伸ばしをした場合の引き伸ばし率が 2.5 倍以下（Ⅱ型、Ⅲ型の引き伸ばしでは、洪水到達時間内実績雨量を計画雨量 111.7mm/4hr まで引き伸ばした場合の引き伸ばし率も 2.5 倍以下）で、引き伸ばし後の洪水到達時間内雨量の確率規模が 1/50～1/200 の範囲内となるⅧ <u>降</u> <u>雨</u> を選定したものである。	(1) 近年の実績降雨 現計画における検討対象降雨波形は、昭和 33 年から平成 11 年までの甲田橋流域平均雨量（24 時間降雨データ）から、概ね 100mm 以上の降雨を抽出し、実績雨量を計画 24 時間雨量 230.2mm に引き伸ばしをした場合の引き伸ばし率が 2.5 倍以下（Ⅱ型、Ⅲ型の引き伸ばしでは、洪水到達時間内実績雨量を計画雨量 111.7mm/4hr まで引き伸ばした場合の引き伸ばし率も 2.5 倍以下）で、引き伸ばし後の洪水到達時間内雨量の確率規模が 1/50～1/200 の範囲内となる <u>8 降</u> <u>雨</u> を選定したものである。																
4	4-33	図-4.3.1 堤川および駒込川の沿川状況	<table><tr><th>区間名</th><th>周辺の状況</th></tr><tr><td>A</td><td>1) 青森市の中心部であり、家屋が密集している区間。 2) 被害額の大半を占める(氾濫面積 412.2ha 影響世帯 9808 世帯)</td></tr><tr><td>B</td><td>1) 河川沿川には下流部と同様に家屋が密集しているが、密集地域の背面は水田等拓けた土地となる。 2) 氾濫面積 47.8ha 影響世帯 347 世帯</td></tr><tr><td>C</td><td>1) 山付区間であり、計画高水流量を満足する区間。 2) <u>山付区間であるため、遊水地等の整備できる適地はない。</u></td></tr></table>	区間名	周辺の状況	A	1) 青森市の中心部であり、家屋が密集している区間。 2) 被害額の大半を占める(氾濫面積 412.2ha 影響世帯 9808 世帯)	B	1) 河川沿川には下流部と同様に家屋が密集しているが、密集地域の背面は水田等拓けた土地となる。 2) 氾濫面積 47.8ha 影響世帯 347 世帯	C	1) 山付区間であり、計画高水流量を満足する区間。 2) <u>山付区間であるため、遊水地等の整備できる適地はない。</u>	<table><tr><th>区間名</th><th>周辺の状況</th></tr><tr><td>A</td><td>1) 青森市の中心部であり、家屋が密集している区間。 2) 被害額の大半を占める(氾濫面積 412.2ha 影響世帯 9808 世帯)</td></tr><tr><td>B</td><td>1) 河川沿川には下流部と同様に家屋が密集しているが、密集地域の背面は水田等拓けた土地となる。 2) 氾濫面積 47.8ha 影響世帯 347 世帯</td></tr><tr><td>C</td><td>1) 山付区間であり、計画高水流量を満足する区間。</td></tr></table>	区間名	周辺の状況	A	1) 青森市の中心部であり、家屋が密集している区間。 2) 被害額の大半を占める(氾濫面積 412.2ha 影響世帯 9808 世帯)	B	1) 河川沿川には下流部と同様に家屋が密集しているが、密集地域の背面は水田等拓けた土地となる。 2) 氾濫面積 47.8ha 影響世帯 347 世帯	C	1) 山付区間であり、計画高水流量を満足する区間。
区間名	周辺の状況																			
A	1) 青森市の中心部であり、家屋が密集している区間。 2) 被害額の大半を占める(氾濫面積 412.2ha 影響世帯 9808 世帯)																			
B	1) 河川沿川には下流部と同様に家屋が密集しているが、密集地域の背面は水田等拓けた土地となる。 2) 氾濫面積 47.8ha 影響世帯 347 世帯																			
C	1) 山付区間であり、計画高水流量を満足する区間。 2) <u>山付区間であるため、遊水地等の整備できる適地はない。</u>																			
区間名	周辺の状況																			
A	1) 青森市の中心部であり、家屋が密集している区間。 2) 被害額の大半を占める(氾濫面積 412.2ha 影響世帯 9808 世帯)																			
B	1) 河川沿川には下流部と同様に家屋が密集しているが、密集地域の背面は水田等拓けた土地となる。 2) 氾濫面積 47.8ha 影響世帯 347 世帯																			
C	1) 山付区間であり、計画高水流量を満足する区間。																			
4	4-36	図-4.3.2 ダム＋河道掘削の概要	<計画概要> ・ <u>駒込ダムにより</u> 、堤川甲田橋基準点において、基本高水 1,600m³/s を 920m³/s に低減させる。 ・ <u>〃</u> 駒込川において、基本高水 800m³/s を 480m³/s に低減させる。 ・ 駒込川の流下能力不足箇所については、河道掘削で対応する。 図－4.3.2 <u>ダム＋河道掘削の概要</u>	<計画概要> ・ <u>既設の下湯ダムおよび横内川多目的遊水地に加え、駒込ダムを建設することにより</u> 、堤川甲田橋基準点において、基本高水 1,600m³/s を 920m³/s に低減させる。 ・ <u>駒込ダムにより</u> 、駒込川において、基本高水 800m³/s を 480m³/s に低減させる。 ・ 駒込川の流下能力不足箇所については、河道掘削で対応する。 図－4.3.2 <u>ダム＋河道掘削案の概要</u>																
4	4-37	図-4.3.3 遊水地＋河道掘削の概要	<計画概要> ・ <u>遊水地により</u> 、堤川甲田橋基準点において、基本高水 1,600m³/s を 920m³/s に低減させる。 ・ <u>〃</u> 駒込川において、基本高水 800m³/s を 480m³/s に低減させる。 ・ 駒込川の流下能力不足箇所については、河道掘削で対応する。 図－4.3.3 <u>遊水地＋河道掘削の概要</u>	<計画概要> ・ <u>既設の下湯ダムおよび横内川多目的遊水地に加え、遊水地を建設することにより</u> 、堤川甲田橋基準点において、基本高水 1,600m³/s を 920m³/s に低減させる。 ・ <u>遊水地により</u> 、駒込川において、基本高水 800m³/s を 480m³/s に低減させる。 ・ 駒込川の流下能力不足箇所については、河道掘削で対応する。 図－4.3.3 <u>遊水地＋河道掘削案の概要</u>																
4	4-38	図-4.3.4 放水路＋河道掘削の概要	<計画概要> ・ <u>放水路により</u> 、堤川甲田橋基準点において、基本高水 1,600m³/s を 920m³/s に低減させる。 ・ <u>〃</u> 駒込川において、基本高水 800m³/s を 480m³/s に低減させる。 ・ 駒込川の流下能力不足箇所については、河道掘削で対応する。 図－4.3.4 <u>放水路＋河道掘削の概要</u>	<計画概要> ・ <u>既設の下湯ダムおよび横内川多目的遊水地に加え、放水路を建設することにより</u> 、堤川甲田橋基準点において、基本高水 1,600m³/s を 920m³/s に低減させる。 ・ <u>放水路により</u> 、駒込川において、基本高水 800m³/s を 480m³/s に低減させる。 ・ 駒込川の流下能力不足箇所については、河道掘削で対応する。 図－4.3.4 <u>放水路＋河道掘削案の概要</u>																

駒込ダム建設事業の検証に係る検討 結果報告書 (平成 23 年 5 月) 正誤表

章	ページ	箇所	誤	正																																																																																																						
4	4-42	表-4. 4. 1 治水対策案一覧表	ダム＋河道掘削【現計画】 事業費 事業費 ○駒込ダム <table><tr><th>工 種</th><th>数 量</th><th>金額(百万円)</th></tr><tr><td>本体工事費</td><td>217,280m³</td><td>25,510,000</td></tr><tr><td>測量および試験費</td><td>1式</td><td>3,816,000</td></tr><tr><td>用地および補償費</td><td>1式</td><td>472,000</td></tr><tr><td>その他(機械器具費等)</td><td>1式</td><td>672,000</td></tr><tr><td>計</td><td></td><td>30,470,000</td></tr></table> 平成22年末予算執行額：51.8億円(治水分) 残事業費：304.7億円－51.8億円＝252.9億円 ○河道掘削 <table><tr><th>工 種</th><th>数 量</th><th>金額(百万円)</th></tr><tr><td>築堤</td><td>盛土</td><td>28,066m²</td></tr><tr><td></td><td>バラベツト</td><td>—</td></tr><tr><td>掘削(残土処理含む)</td><td></td><td>75,817m²</td></tr><tr><td>護岸</td><td>鋼矢板</td><td>650m²</td></tr><tr><td></td><td>ブロック張り</td><td>—</td></tr><tr><td>その他(堤脚水路他)</td><td>1式</td><td>82</td></tr><tr><td>橋梁(架替え)</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>道路(舗装、機能補償他)</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>用地買収</td><td></td><td>29,246m²</td></tr><tr><td>家屋補償</td><td>平屋他</td><td>—</td></tr><tr><td></td><td>その他</td><td>—</td></tr><tr><td>その他(間接費、諸経費)</td><td></td><td>245</td></tr><tr><td>計</td><td></td><td>1,134</td></tr></table> 11.3億円 264.2億円 ①	工 種	数 量	金額(百万円)	本体工事費	217,280m ³	25,510,000	測量および試験費	1式	3,816,000	用地および補償費	1式	472,000	その他(機械器具費等)	1式	672,000	計		30,470,000	工 種	数 量	金額(百万円)	築堤	盛土	28,066m ²		バラベツト	—	掘削(残土処理含む)		75,817m ²	護岸	鋼矢板	650m ²		ブロック張り	—	その他(堤脚水路他)	1式	82	橋梁(架替え)	—	—	道路(舗装、機能補償他)	—	—	用地買収		29,246m ²	家屋補償	平屋他	—		その他	—	その他(間接費、諸経費)		245	計		1,134	ダム＋河道掘削【現計画】 事業費 事業費 ○駒込ダム残事業費 373.7億円×67.7%≒253.0億円 ○河道掘削 <table><tr><th>工 種</th><th>数 量</th><th>金額(百万円)</th></tr><tr><td>築堤</td><td>盛土</td><td>28,066m²</td></tr><tr><td></td><td>バラベツト</td><td>—</td></tr><tr><td>掘削(残土処理含む)</td><td></td><td>75,817m²</td></tr><tr><td>護岸</td><td>鋼矢板</td><td>650m²</td></tr><tr><td></td><td>ブロック張り</td><td>—</td></tr><tr><td>その他(堤脚水路他)</td><td>1式</td><td>82</td></tr><tr><td>橋梁(架替え)</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>道路(舗装、機能補償他)</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>用地買収</td><td></td><td>29,246m²</td></tr><tr><td>家屋補償</td><td>平屋他</td><td>—</td></tr><tr><td></td><td>その他</td><td>—</td></tr><tr><td>その他(間接費、諸経費)</td><td></td><td>245</td></tr><tr><td>計</td><td></td><td>1,134</td></tr></table> 11.3億円 264.3億円 ①	工 種	数 量	金額(百万円)	築堤	盛土	28,066m ²		バラベツト	—	掘削(残土処理含む)		75,817m ²	護岸	鋼矢板	650m ²		ブロック張り	—	その他(堤脚水路他)	1式	82	橋梁(架替え)	—	—	道路(舗装、機能補償他)	—	—	用地買収		29,246m ²	家屋補償	平屋他	—		その他	—	その他(間接費、諸経費)		245	計		1,134
工 種	数 量	金額(百万円)																																																																																																								
本体工事費	217,280m ³	25,510,000																																																																																																								
測量および試験費	1式	3,816,000																																																																																																								
用地および補償費	1式	472,000																																																																																																								
その他(機械器具費等)	1式	672,000																																																																																																								
計		30,470,000																																																																																																								
工 種	数 量	金額(百万円)																																																																																																								
築堤	盛土	28,066m ²																																																																																																								
	バラベツト	—																																																																																																								
掘削(残土処理含む)		75,817m ²																																																																																																								
護岸	鋼矢板	650m ²																																																																																																								
	ブロック張り	—																																																																																																								
その他(堤脚水路他)	1式	82																																																																																																								
橋梁(架替え)	—	—																																																																																																								
道路(舗装、機能補償他)	—	—																																																																																																								
用地買収		29,246m ²																																																																																																								
家屋補償	平屋他	—																																																																																																								
	その他	—																																																																																																								
その他(間接費、諸経費)		245																																																																																																								
計		1,134																																																																																																								
工 種	数 量	金額(百万円)																																																																																																								
築堤	盛土	28,066m ²																																																																																																								
	バラベツト	—																																																																																																								
掘削(残土処理含む)		75,817m ²																																																																																																								
護岸	鋼矢板	650m ²																																																																																																								
	ブロック張り	—																																																																																																								
その他(堤脚水路他)	1式	82																																																																																																								
橋梁(架替え)	—	—																																																																																																								
道路(舗装、機能補償他)	—	—																																																																																																								
用地買収		29,246m ²																																																																																																								
家屋補償	平屋他	—																																																																																																								
	その他	—																																																																																																								
その他(間接費、諸経費)		245																																																																																																								
計		1,134																																																																																																								
4	4-43	表-4. 4. 2 治水対策案 評価軸による評価	<table><tr><th>評価軸</th><th>評価の考え方</th><th>ダム＋河道掘削案【現計画】</th><th>遊水地＋河道掘削案</th><th>放水路＋河道掘削案</th><th>引堤＋河道掘削案</th><th>堤防の嵩上げ＋河道掘削＋排水機場案</th></tr><tr><td rowspan="3">安全度</td><td>河川整備計画レベルの目標に対し安全を確保できるか</td><td>基準地点において、1/100の安全度を確保できる。</td><td>○同左</td><td>○同左</td><td>○同左</td><td>○同左</td></tr><tr><td>目標を上回る洪水等が発生した場合にどのような状態となるか</td><td>・構造的には余力があるため、1/200規模の洪水までは安全度が確保できる。 ・上記を超過した場合は、流入量＝放流量となり、河道からのはん濫の危険性がある。</td><td>・下流が目標流量を超過している場合でも、遊水地容量に余裕があれば一定の洪水調節効果を発現する可能性がある。 ・遊水地容量が満杯になると、周囲堤の破堤・はん濫の危険性がある。</td><td>・目標を上回る流量が流入した場合、放水路の洪水疎通能力が低減し、河道の負担を増大させ、築堤部に破堤の危険性がある。</td><td>・目標流量を超過することにより、堤防決壊の危険性がある。</td><td>・堤防の嵩上げは洪水時の水位を引き上げることになり、破堤はん濫が発生した時の被害は従前より大きくなる。</td></tr><tr><td>段階的にどのように安全度が確保されていくのか(例えば5、10年後)</td><td>・ダムと河道掘削は、平成38年に完成予定であり、1/100の確率規模に対応可能である。 ■平成36年度 河道掘削完了：堤川1/30・駒込川1/20 ■平成38年度 ダム完成：堤川・駒込川1/100</td><td>・平成38年に遊水地と河道掘削を完成させる場合、年間約33億円の予算が必要となる。 ・現計画に対し段階的な治水安全度の向上が見込めるが、現計画と同規模の年次予算を見込んだ場合、完成予定は平成46年となり現計画に劣る。 ■平成42年度 河道掘削完了：堤川1/30・駒込川1/20 遊水地1基完成：堤川・駒込川1/70 ■平成46年目途 遊水地2基完成：堤川・駒込川1/100</td><td>・平成38年に放水路と河道掘削を完成させる場合、年間約54億円の予算が必要となる。 ・現計画と同等の治水安全度の向上が見込めるが、現計画と同規模の年次予算を見込んだ場合、完成予定は平成61年となり現計画に劣る。 ■平成42年度 河道掘削完了：堤川1/30・駒込川1/20 ■平成61年度 放水路完成：堤川・駒込川1/100</td><td>・平成38年に引堤と河道掘削を完成させる場合、年間約59億円の予算が必要となる。 ・現計画に対し段階的な治水安全度の向上が見込めるが、現計画と同規模の年次予算を見込んだ場合、完成予定は平成64年となり現計画に劣る。 ■平成47年度 堤川完了：堤川1/100 ■平成64年度 駒込川完了：駒込川1/100</td><td>・平成38年に堤防嵩上げ、河道掘削、排水機場を完成させる場合、年間約27億円の予算が必要となる。 ・現計画に対し段階的な治水安全度の向上が見込めるが、現計画と同規模の年次予算を見込んだ場合、完成予定は平成41年となり現計画に劣る。 ■平成32年度 堤川完了：堤川1/100 ■平成41年度 駒込川完了：駒込川1/100</td></tr><tr><td></td><td>どの範囲でどのような効果が確保されていくのか(上下流や支川等における効果)</td><td>堤川：河口～駒込川合流 現況約1/30→1/100の安全度 駒込川：堤川合流部～6km付近(幸畑橋) 現況約1/20→1/100の安全度 中流部 現況約1/5→1/100の安全度</td><td>○同左</td><td>○同左</td><td>○同左</td><td>○同左</td></tr><tr><td rowspan="2">コスト</td><td>完成までに要する費用はどのくらいか</td><td>① ダム事業費(総事業費)：450.0億円 ダム事業費(治水分)：304.7億円 H22年度末残事業費：252.9億円 河道改修費(駒込川)：11.3億円 合計：264.2億円</td><td>② 遊水地：562.0億円 河道改修費(駒込川)：11.3億円 合計：573.3億円 <付帯工事> 橋梁架け替え(3)、揚水機場(2) <補償費> 用地買収 (1,512,000m³) 家屋補償 平屋(104) アパート・マンション(1) 商業ビル・工場(3)</td><td>③ 放水路：904.0億円 河道改修費(駒込川)：11.3億円 合計：915.3億円 <補償費> 用地買収 (20,000m³) 家屋補償 (11)</td><td>④ 河道改修費(堤川)：439.0億円 河道改修費(駒込川)：561.5億円 合計：1,000.5億円 <付帯工事> 堤川：橋梁架け替え(8) 駒込川：橋梁架け替え(13) <補償費> ○堤川 ④ 用地買収 (128,720m³) 家屋補償 平屋(95) アパート・マンション(15) 商業ビル工場(28) 公共施設(1) ○駒込川 (144,290m³) 平屋(169) アパート・マンション(28) 商業ビル工場(7) 公共施設(5)</td><td>⑤ 河道改修費(堤川)：140.6億円 河道改修費(駒込川)：182.0億円 排水機場：124.3億円 合計：446.9億円 <付帯工事> 堤川：橋梁架け替え(3)、駒込川：橋梁架け替え(11) <補償費> ○堤川 ⑤ 用地買収 (48,860m³) 家屋補償 平屋(68) アパート・マンション(6) 商業ビル工場(8) 公共施設(3) ○駒込川 (51,875m³) 平屋(38) アパート・マンション(5) <内水対策> 排水機場 22箇所</td></tr><tr><td>維持管理に要する費用はどのくらいか(50年)</td><td>ダム(治水分)：76.2億円(1.5億円/年) 河道：2.8億円(0.1億円/年) (事業費の0.5%として計上) 合計：79.0億円</td><td>① 遊水地：140.5億円(2.8億円/年) 河道：2.8億円(0.1億円/年) (事業費の0.5%として計上) 合計：143.3億円</td><td>③ 放水路：226.0億円(4.5億円/年) 河道：2.8億円(0.1億円/年) (事業費の0.5%として計上) 合計：228.8億円</td><td>④ 河道(駒込川・堤川)：250.1億円(5.0億円/年) (事業費の0.5%として計上)</td><td>⑤ 河道(駒込川・堤川)：80.6億円(1.6億円/年) 排水機場：31.1億円(0.6億円/年) (事業費の0.5%として計上) 合計：111.7億円</td></tr></table>	評価軸	評価の考え方	ダム＋河道掘削案【現計画】	遊水地＋河道掘削案	放水路＋河道掘削案	引堤＋河道掘削案	堤防の嵩上げ＋河道掘削＋排水機場案	安全度	河川整備計画レベルの目標に対し安全を確保できるか	基準地点において、1/100の安全度を確保できる。	○同左	○同左	○同左	○同左	目標を上回る洪水等が発生した場合にどのような状態となるか	・構造的には余力があるため、1/200規模の洪水までは安全度が確保できる。 ・上記を超過した場合は、流入量＝放流量となり、河道からのはん濫の危険性がある。	・下流が目標流量を超過している場合でも、遊水地容量に余裕があれば一定の洪水調節効果を発現する可能性がある。 ・遊水地容量が満杯になると、周囲堤の破堤・はん濫の危険性がある。	・目標を上回る流量が流入した場合、放水路の洪水疎通能力が低減し、河道の負担を増大させ、築堤部に破堤の危険性がある。	・目標流量を超過することにより、堤防決壊の危険性がある。	・堤防の嵩上げは洪水時の水位を引き上げることになり、破堤はん濫が発生した時の被害は従前より大きくなる。	段階的にどのように安全度が確保されていくのか(例えば5、10年後)	・ダムと河道掘削は、平成38年に完成予定であり、1/100の確率規模に対応可能である。 ■平成36年度 河道掘削完了：堤川1/30・駒込川1/20 ■平成38年度 ダム完成：堤川・駒込川1/100	・平成38年に遊水地と河道掘削を完成させる場合、年間約33億円の予算が必要となる。 ・現計画に対し段階的な治水安全度の向上が見込めるが、現計画と同規模の年次予算を見込んだ場合、完成予定は平成46年となり現計画に劣る。 ■平成42年度 河道掘削完了：堤川1/30・駒込川1/20 遊水地1基完成：堤川・駒込川1/70 ■平成46年目途 遊水地2基完成：堤川・駒込川1/100	・平成38年に放水路と河道掘削を完成させる場合、年間約54億円の予算が必要となる。 ・現計画と同等の治水安全度の向上が見込めるが、現計画と同規模の年次予算を見込んだ場合、完成予定は平成61年となり現計画に劣る。 ■平成42年度 河道掘削完了：堤川1/30・駒込川1/20 ■平成61年度 放水路完成：堤川・駒込川1/100	・平成38年に引堤と河道掘削を完成させる場合、年間約59億円の予算が必要となる。 ・現計画に対し段階的な治水安全度の向上が見込めるが、現計画と同規模の年次予算を見込んだ場合、完成予定は平成64年となり現計画に劣る。 ■平成47年度 堤川完了：堤川1/100 ■平成64年度 駒込川完了：駒込川1/100	・平成38年に堤防嵩上げ、河道掘削、排水機場を完成させる場合、年間約27億円の予算が必要となる。 ・現計画に対し段階的な治水安全度の向上が見込めるが、現計画と同規模の年次予算を見込んだ場合、完成予定は平成41年となり現計画に劣る。 ■平成32年度 堤川完了：堤川1/100 ■平成41年度 駒込川完了：駒込川1/100		どの範囲でどのような効果が確保されていくのか(上下流や支川等における効果)	堤川：河口～駒込川合流 現況約1/30→1/100の安全度 駒込川：堤川合流部～6km付近(幸畑橋) 現況約1/20→1/100の安全度 中流部 現況約1/5→1/100の安全度	○同左	○同左	○同左	○同左	コスト	完成までに要する費用はどのくらいか	① ダム事業費(総事業費)：450.0億円 ダム事業費(治水分)：304.7億円 H22年度末残事業費：252.9億円 河道改修費(駒込川)：11.3億円 合計：264.2億円	② 遊水地：562.0億円 河道改修費(駒込川)：11.3億円 合計：573.3億円 <付帯工事> 橋梁架け替え(3)、揚水機場(2) <補償費> 用地買収 (1,512,000m ³) 家屋補償 平屋(104) アパート・マンション(1) 商業ビル・工場(3)	③ 放水路：904.0億円 河道改修費(駒込川)：11.3億円 合計：915.3億円 <補償費> 用地買収 (20,000m ³) 家屋補償 (11)	④ 河道改修費(堤川)：439.0億円 河道改修費(駒込川)：561.5億円 合計：1,000.5億円 <付帯工事> 堤川：橋梁架け替え(8) 駒込川：橋梁架け替え(13) <補償費> ○堤川 ④ 用地買収 (128,720m ³) 家屋補償 平屋(95) アパート・マンション(15) 商業ビル工場(28) 公共施設(1) ○駒込川 (144,290m ³) 平屋(169) アパート・マンション(28) 商業ビル工場(7) 公共施設(5)	⑤ 河道改修費(堤川)：140.6億円 河道改修費(駒込川)：182.0億円 排水機場：124.3億円 合計：446.9億円 <付帯工事> 堤川：橋梁架け替え(3)、駒込川：橋梁架け替え(11) <補償費> ○堤川 ⑤ 用地買収 (48,860m ³) 家屋補償 平屋(68) アパート・マンション(6) 商業ビル工場(8) 公共施設(3) ○駒込川 (51,875m ³) 平屋(38) アパート・マンション(5) <内水対策> 排水機場 22箇所	維持管理に要する費用はどのくらいか(50年)	ダム(治水分)：76.2億円(1.5億円/年) 河道：2.8億円(0.1億円/年) (事業費の0.5%として計上) 合計：79.0億円	① 遊水地：140.5億円(2.8億円/年) 河道：2.8億円(0.1億円/年) (事業費の0.5%として計上) 合計：143.3億円	③ 放水路：226.0億円(4.5億円/年) 河道：2.8億円(0.1億円/年) (事業費の0.5%として計上) 合計：228.8億円	④ 河道(駒込川・堤川)：250.1億円(5.0億円/年) (事業費の0.5%として計上)	⑤ 河道(駒込川・堤川)：80.6億円(1.6億円/年) 排水機場：31.1億円(0.6億円/年) (事業費の0.5%として計上) 合計：111.7億円	①～⑤の修正内容は次頁以降に示すとおりである。																																																								
評価軸	評価の考え方	ダム＋河道掘削案【現計画】	遊水地＋河道掘削案	放水路＋河道掘削案	引堤＋河道掘削案	堤防の嵩上げ＋河道掘削＋排水機場案																																																																																																				
安全度	河川整備計画レベルの目標に対し安全を確保できるか	基準地点において、1/100の安全度を確保できる。	○同左	○同左	○同左	○同左																																																																																																				
	目標を上回る洪水等が発生した場合にどのような状態となるか	・構造的には余力があるため、1/200規模の洪水までは安全度が確保できる。 ・上記を超過した場合は、流入量＝放流量となり、河道からのはん濫の危険性がある。	・下流が目標流量を超過している場合でも、遊水地容量に余裕があれば一定の洪水調節効果を発現する可能性がある。 ・遊水地容量が満杯になると、周囲堤の破堤・はん濫の危険性がある。	・目標を上回る流量が流入した場合、放水路の洪水疎通能力が低減し、河道の負担を増大させ、築堤部に破堤の危険性がある。	・目標流量を超過することにより、堤防決壊の危険性がある。	・堤防の嵩上げは洪水時の水位を引き上げることになり、破堤はん濫が発生した時の被害は従前より大きくなる。																																																																																																				
	段階的にどのように安全度が確保されていくのか(例えば5、10年後)	・ダムと河道掘削は、平成38年に完成予定であり、1/100の確率規模に対応可能である。 ■平成36年度 河道掘削完了：堤川1/30・駒込川1/20 ■平成38年度 ダム完成：堤川・駒込川1/100	・平成38年に遊水地と河道掘削を完成させる場合、年間約33億円の予算が必要となる。 ・現計画に対し段階的な治水安全度の向上が見込めるが、現計画と同規模の年次予算を見込んだ場合、完成予定は平成46年となり現計画に劣る。 ■平成42年度 河道掘削完了：堤川1/30・駒込川1/20 遊水地1基完成：堤川・駒込川1/70 ■平成46年目途 遊水地2基完成：堤川・駒込川1/100	・平成38年に放水路と河道掘削を完成させる場合、年間約54億円の予算が必要となる。 ・現計画と同等の治水安全度の向上が見込めるが、現計画と同規模の年次予算を見込んだ場合、完成予定は平成61年となり現計画に劣る。 ■平成42年度 河道掘削完了：堤川1/30・駒込川1/20 ■平成61年度 放水路完成：堤川・駒込川1/100	・平成38年に引堤と河道掘削を完成させる場合、年間約59億円の予算が必要となる。 ・現計画に対し段階的な治水安全度の向上が見込めるが、現計画と同規模の年次予算を見込んだ場合、完成予定は平成64年となり現計画に劣る。 ■平成47年度 堤川完了：堤川1/100 ■平成64年度 駒込川完了：駒込川1/100	・平成38年に堤防嵩上げ、河道掘削、排水機場を完成させる場合、年間約27億円の予算が必要となる。 ・現計画に対し段階的な治水安全度の向上が見込めるが、現計画と同規模の年次予算を見込んだ場合、完成予定は平成41年となり現計画に劣る。 ■平成32年度 堤川完了：堤川1/100 ■平成41年度 駒込川完了：駒込川1/100																																																																																																				
	どの範囲でどのような効果が確保されていくのか(上下流や支川等における効果)	堤川：河口～駒込川合流 現況約1/30→1/100の安全度 駒込川：堤川合流部～6km付近(幸畑橋) 現況約1/20→1/100の安全度 中流部 現況約1/5→1/100の安全度	○同左	○同左	○同左	○同左																																																																																																				
コスト	完成までに要する費用はどのくらいか	① ダム事業費(総事業費)：450.0億円 ダム事業費(治水分)：304.7億円 H22年度末残事業費：252.9億円 河道改修費(駒込川)：11.3億円 合計：264.2億円	② 遊水地：562.0億円 河道改修費(駒込川)：11.3億円 合計：573.3億円 <付帯工事> 橋梁架け替え(3)、揚水機場(2) <補償費> 用地買収 (1,512,000m ³) 家屋補償 平屋(104) アパート・マンション(1) 商業ビル・工場(3)	③ 放水路：904.0億円 河道改修費(駒込川)：11.3億円 合計：915.3億円 <補償費> 用地買収 (20,000m ³) 家屋補償 (11)	④ 河道改修費(堤川)：439.0億円 河道改修費(駒込川)：561.5億円 合計：1,000.5億円 <付帯工事> 堤川：橋梁架け替え(8) 駒込川：橋梁架け替え(13) <補償費> ○堤川 ④ 用地買収 (128,720m ³) 家屋補償 平屋(95) アパート・マンション(15) 商業ビル工場(28) 公共施設(1) ○駒込川 (144,290m ³) 平屋(169) アパート・マンション(28) 商業ビル工場(7) 公共施設(5)	⑤ 河道改修費(堤川)：140.6億円 河道改修費(駒込川)：182.0億円 排水機場：124.3億円 合計：446.9億円 <付帯工事> 堤川：橋梁架け替え(3)、駒込川：橋梁架け替え(11) <補償費> ○堤川 ⑤ 用地買収 (48,860m ³) 家屋補償 平屋(68) アパート・マンション(6) 商業ビル工場(8) 公共施設(3) ○駒込川 (51,875m ³) 平屋(38) アパート・マンション(5) <内水対策> 排水機場 22箇所																																																																																																				
	維持管理に要する費用はどのくらいか(50年)	ダム(治水分)：76.2億円(1.5億円/年) 河道：2.8億円(0.1億円/年) (事業費の0.5%として計上) 合計：79.0億円	① 遊水地：140.5億円(2.8億円/年) 河道：2.8億円(0.1億円/年) (事業費の0.5%として計上) 合計：143.3億円	③ 放水路：226.0億円(4.5億円/年) 河道：2.8億円(0.1億円/年) (事業費の0.5%として計上) 合計：228.8億円	④ 河道(駒込川・堤川)：250.1億円(5.0億円/年) (事業費の0.5%として計上)	⑤ 河道(駒込川・堤川)：80.6億円(1.6億円/年) 排水機場：31.1億円(0.6億円/年) (事業費の0.5%として計上) 合計：111.7億円																																																																																																				

駒込ダム建設事業の検証に係る検討 結果報告書 (平成 23 年 5 月) 正誤表

章	ページ	箇所	誤	正
4	4-43	表-4.4.2 治水対策案 評価軸による評価	①ダム＋河道掘削案 コスト 完成までに要する費用はどのくらいか ダム事業費(総事業費)；450.0 億円 ダム事業費(治水分)；304.7 億円 ----- H22 年度末残事業費；252.9 億円 河道改修費（駒込川）；11.3 億円 合計；264.2 億円	①ダム＋河道掘削案 コスト 完成までに要する費用はどのくらいか ダム事業費(総事業費)；450.0 億円 ダム事業費(治水分)；304.7 億円 ----- H22 年度末残事業費；253.0 億円 河道改修費（駒込川）；11.3 億円 合計；264.3 億円 ○ダム ＜補償費＞ 用地買収(一式) ○駒込川：河道掘削 ＜補償費＞ 用地買収 (29,246m²)
			②遊水地＋河道掘削案 コスト 完成までに要する費用はどのくらいか 遊水地；562.0 億円 河道改修費（駒込川）；11.3 億円 合計；573.3 億円 ＜付帯工事＞ 橋梁架け替え(3)、揚水機場(2) ＜補償費＞ 用地買収 (1,512,000m³) 家屋補償 平屋(104) アパート・マンション(1) 商業ビル・工場(3)	②遊水地＋河道掘削案 コスト 完成までに要する費用はどのくらいか 遊水地；562.0 億円 河道改修費（駒込川）；11.3 億円 合計；573.3 億円 ○遊水地 ＜付帯工事＞ 橋梁架け替え(3)、揚水機場(2) ＜補償費＞ 用地買収 (1,512,000m²) 家屋補償 平屋(104) アパート・マンション(1) 商業ビル・工場(3) ○駒込川：河道掘削 ＜補償費＞ 用地買収 (29,246m²)
			③放水路＋河道掘削案 コスト 完成までに要する費用はどのくらいか 放水路；904.0 億円 河道改修費（駒込川）；11.3 億円 合計；915.3 億円 ＜補償費＞ 用地買収 (20,000m³) 家屋補償 (11)	③放水路＋河道掘削案 コスト 完成までに要する費用はどのくらいか 放水路；904.0 億円 河道改修費（駒込川）；11.3 億円 合計；915.3 億円 ○放水路 ＜補償費＞ 用地買収 (20,000m²) 家屋補償 (11) ○駒込川：河道掘削 ＜補償費＞ 用地買収 (29,246m²)

駒込ダム建設事業の検証に係る検討 結果報告書 (平成 23 年 5 月) 正誤表

章	ページ	箇所	誤	正
4	4-43	表-4.4.2 治水対策案 評価軸に よる評価	④引堤＋河道掘削案 コスト 完成までに要する費用はどのくらいか 河道改修費（堤 川）；439.0 億円 河道改修費（駒込川）；561.5 億円 合計；1,000.5 億円 ＜付帯工事＞ 堤川；橋梁架け替え(8) 駒込川；橋梁架け替え(13) ＜補償費＞ ○堤川 用地買収 (128,720m³) 家屋補償 平屋(95) アパート・マンション(15) 商業ビル工場(28) 公共施設(1) ○駒込川 用地買収 (144,290m³) 家屋補償 平屋(169) アパート・マンション(28) 商業ビル工場(7) 公共施設(5)	④引堤＋河道掘削案 コスト 完成までに要する費用はどのくらいか 河道改修費（堤 川）；439.0 億円 河道改修費（駒込川）；561.5 億円 合計；1,000.5 億円 ○堤川：引堤＋河道掘削 ＜付帯工事＞ 橋梁架け替え(8) ＜補償費＞ 用地買収 (128,720m²) 家屋補償 平屋(95) アパート・マンション(15) 商業ビル工場(28) 公共施設(1) ○駒込川：引堤＋河道掘削 ＜付帯工事＞ 橋梁架け替え(13) ＜補償費＞ 用地買収 (144,290m²) 家屋補償 平屋(169) アパート・マンション(28) 商業ビル工場(7) 公共施設(5)
			⑤堤防の嵩上げ＋河道掘削＋排水機場案 コスト 完成までに要する費用はどのくらいか 河道改修費（堤 川）；140.6 億円 河道改修費（駒込川）；182.0 億円 排水機場 ；124.3 億円 合計；446.9 億円 ＜付帯工事＞ 堤川；橋梁架け替え(3)、 駒込川；橋梁架け替え(11) ＜補償費＞ ○堤川 用地買収 (48,860m³) 家屋補償 平屋(68) アパート・マンション(6) 商業ビル工場(8) 公共施設(3) ○駒込川 用地買収 (51,875m³) 家屋補償 平屋(38) アパート・マンション(5) 【内水対策】 排水機場 22 箇所	⑤堤防の嵩上げ＋河道掘削＋排水機場案 コスト 完成までに要する費用はどのくらいか 河道改修費（堤 川）；140.6 億円 河道改修費（駒込川）；182.0 億円 排水機場 ；124.3 億円 合計；446.9 億円 ○堤川：堤防の嵩上げ＋河道掘削 ＜付帯工事＞ 橋梁架け替え(2) ＜補償費＞ 用地買収 (48,860m²) 家屋補償 平屋(68) アパート・マンション(6) 商業ビル工場(8) 公共施設(3) ○駒込川：堤防の嵩上げ＋河道掘削 ＜付帯工事＞ 橋梁架け替え(11) ＜補償費＞ 用地買収 (51,875m²) 家屋補償 平屋(38) アパート・マンション(5) ○内水対策：排水機場(22 箇所) ＜補償費＞ 用地買収 (2,200m²) 家屋補償 平屋(10) アパート・マンション(2)

駒込ダム建設事業の検証に係る検討 結果報告書 (平成 23 年 5 月) 正誤表

章	ページ	箇所	誤			正																																																																																																																																																														
4	4-56	表－4.5.6 流水の正常な機能の 維持に係る対策案の 評価軸毎の評価	<table><tr><td>評価軸</td><td>評価の考え方</td><td>ダム（駒込ダム）案</td><td></td></tr><tr><td rowspan="4">目標</td><td>河川整備計画レベルの目標に対し必要量を確保できるか</td><td>・可 能</td><td>○</td></tr><tr><td>段階的にどのように効果が確保されていくのか</td><td>・ダム完成後に効果が確保される。</td><td>○</td></tr><tr><td>どの範囲でどのような効果が確保されていくのか（取水位置別に、取水可能量がどのように確保されるか）</td><td>・駒込川における補給対象区間の全区間（A、B区間）</td><td>○</td></tr><tr><td>どのような水質の用水が得られるか</td><td>・酸性水 （ダム上流に強酸性の支川があるため）</td><td>－</td></tr><tr><td rowspan="2">コスト</td><td>完成までに要する費用はどのくらいか</td><td>ダム事業費（不特定分）：144.0億円 H22年度末残事業費（不特定分）：119.9億円</td><td>①</td></tr><tr><td>維持管理に要する費用はどのくらいか</td><td>維持管理費（50年分）：36.1億円 （事業費の0.5%として計上）</td><td>①</td></tr><tr><td rowspan="4">実現性</td><td>その他の費用（ダム中止に伴って発生する費用等）はどのくらいか</td><td>【ダム中止に伴い発生する費用等】 ・なし 【その他の費用】 ・なし</td><td>○</td></tr><tr><td>土地所有者等の協力の見通しはどうか</td><td>・用地の8.6%が買収済み（H20年度末） ・2つの温泉（田代元湯、田代新湯）と交渉中 ・家屋移転は発生しない</td><td>○</td></tr><tr><td>関係する河川使用者の同意の見通しはどうか</td><td>・多目的ダムとして認知されており、同意が得られると想定される。</td><td>○</td></tr><tr><td>発電を目的として事業に参画している者への影響の程度はどうか</td><td>・影響はない（流況が安定し、既設発電所の発電効率がある）。</td><td>○</td></tr><tr><td rowspan="4">環境への影響</td><td>その他の関係者との調整の見通しはどうか</td><td>・国有林野内でのダム建設については、林野庁国有林野利活用委員会より了解を得ている。 ・国立公園内でのダム建設については、環境省より許可を得ている。</td><td>○</td></tr><tr><td>法制度上の観点から実現性の見通しはどうか</td><td>・H13.10.10： 堤川水系河川整備基本方針の策定 ・H16.12.6： 駒込ダム全体計画の承認 ・H17.1.17： 堤川水系河川整備計画の策定</td><td>○</td></tr><tr><td>技術上の観点から実現性の見通しはどうか</td><td>・実現可能</td><td>○</td></tr><tr><td>将来にわたって持続可能といえるか</td><td>・計画堆砂量を適正に見込むことで持続可能</td><td>○</td></tr><tr><td rowspan="4">地域振興 に対する 影響</td><td>事業地及びその周辺への影響はどの程度か</td><td>・整備計画策定にあたり懇談会を実施している。 ・環境面について配慮されており、モニタリングも継続中。</td><td>○</td></tr><tr><td>地域振興に対してどのような効果があるか</td><td>・現状とほとんど変わらない</td><td>○</td></tr><tr><td>地域間の利害の衝突への配慮がなされているか</td><td>・水没する家屋はないため、地域間の不均衡はない。</td><td>○</td></tr><tr><td rowspan="4">環境への影響</td><td>水環境に対してどのような影響があるか</td><td>・正常流量を確保することで、全区間で流水の清潔の保持が図れる。</td><td>○</td></tr><tr><td>地下水位、地盤沈下や地下水の塩水化にどのような影響があるか</td><td>・影響なし</td><td>○</td></tr><tr><td>生物の多様性の確保及び流域の自然環境全体にどのような影響があるか</td><td>・環境アセスメントに準じた調査を行っており、自然環境への影響が少ないことを確認している。</td><td>○</td></tr><tr><td>景観、人と自然との豊かなふれあいにどのような影響があるか</td><td>・ダム湖が整備されるため、新たな景観が形成される（但し、観光地化する予定はない）。 ・正常流量が確保されることにより、下流河川で良好な景観が確保できる。</td><td>○</td></tr><tr><td rowspan="4">評価軸</td><td>CO2排出負荷はどう変わるか</td><td>・現状とダム完成後で特に変化はないと想定される。</td><td>○</td></tr><tr><td>その他</td><td>・特になし</td><td>－</td></tr></table>	評価軸	評価の考え方	ダム（駒込ダム）案		目標	河川整備計画レベルの目標に対し必要量を確保できるか	・可 能	○	段階的にどのように効果が確保されていくのか	・ダム完成後に効果が確保される。	○	どの範囲でどのような効果が確保されていくのか（取水位置別に、取水可能量がどのように確保されるか）	・駒込川における補給対象区間の全区間（A、B区間）	○	どのような水質の用水が得られるか	・酸性水 （ダム上流に強酸性の支川があるため）	－	コスト	完成までに要する費用はどのくらいか	ダム事業費（不特定分）：144.0億円 H22年度末残事業費（不特定分）：119.9億円	①	維持管理に要する費用はどのくらいか	維持管理費（50年分）：36.1億円 （事業費の0.5%として計上）	①	実現性	その他の費用（ダム中止に伴って発生する費用等）はどのくらいか	【ダム中止に伴い発生する費用等】 ・なし 【その他の費用】 ・なし	○	土地所有者等の協力の見通しはどうか	・用地の8.6%が買収済み（H20年度末） ・2つの温泉（田代元湯、田代新湯）と交渉中 ・家屋移転は発生しない	○	関係する河川使用者の同意の見通しはどうか	・多目的ダムとして認知されており、同意が得られると想定される。	○	発電を目的として事業に参画している者への影響の程度はどうか	・影響はない（流況が安定し、既設発電所の発電効率がある）。	○	環境への影響	その他の関係者との調整の見通しはどうか	・国有林野内でのダム建設については、林野庁国有林野利活用委員会より了解を得ている。 ・国立公園内でのダム建設については、環境省より許可を得ている。	○	法制度上の観点から実現性の見通しはどうか	・H13.10.10： 堤川水系河川整備基本方針の策定 ・H16.12.6： 駒込ダム全体計画の承認 ・H17.1.17： 堤川水系河川整備計画の策定	○	技術上の観点から実現性の見通しはどうか	・実現可能	○	将来にわたって持続可能といえるか	・計画堆砂量を適正に見込むことで持続可能	○	地域振興 に対する 影響	事業地及びその周辺への影響はどの程度か	・整備計画策定にあたり懇談会を実施している。 ・環境面について配慮されており、モニタリングも継続中。	○	地域振興に対してどのような効果があるか	・現状とほとんど変わらない	○	地域間の利害の衝突への配慮がなされているか	・水没する家屋はないため、地域間の不均衡はない。	○	環境への影響	水環境に対してどのような影響があるか	・正常流量を確保することで、全区間で流水の清潔の保持が図れる。	○	地下水位、地盤沈下や地下水の塩水化にどのような影響があるか	・影響なし	○	生物の多様性の確保及び流域の自然環境全体にどのような影響があるか	・環境アセスメントに準じた調査を行っており、自然環境への影響が少ないことを確認している。	○	景観、人と自然との豊かなふれあいにどのような影響があるか	・ダム湖が整備されるため、新たな景観が形成される（但し、観光地化する予定はない）。 ・正常流量が確保されることにより、下流河川で良好な景観が確保できる。	○	評価軸	CO2排出負荷はどう変わるか	・現状とダム完成後で特に変化はないと想定される。	○	その他	・特になし	－	<table><tr><td>評価軸</td><td>評価の考え方</td><td>ダム（駒込ダム）案</td><td></td></tr><tr><td rowspan="4">目標</td><td>河川整備計画レベルの目標に対し必要量を確保できるか</td><td>・可 能</td><td>○</td></tr><tr><td>段階的にどのように効果が確保されていくのか</td><td>・ダム完成後に効果が確保される。</td><td>○</td></tr><tr><td>どの範囲でどのような効果が確保されていくのか（取水位置別に、取水可能量がどのように確保されるか）</td><td>・駒込川における補給対象区間の全区間（A、B区間）</td><td>○</td></tr><tr><td>どのような水質の用水が得られるか</td><td>・酸性水 （ダム上流に強酸性の支川があるため）</td><td>－</td></tr><tr><td rowspan="2">コスト</td><td>完成までに要する費用はどのくらいか</td><td>ダム事業費（不特定分）：144.0億円 H22年度末残事業費（不特定分）：119.6億円</td><td>①</td></tr><tr><td>維持管理に要する費用はどのくらいか</td><td>維持管理費（50年分）：36.1億円 （事業費の0.5%として計上）</td><td>①</td></tr><tr><td rowspan="4">実現性</td><td>その他の費用（ダム中止に伴って発生する費用等）はどのくらいか</td><td>【ダム中止に伴い発生する費用等】 ・なし 【その他の費用】 ・なし</td><td>○</td></tr><tr><td>土地所有者等の協力の見通しはどうか</td><td>・用地の8.6%が買収済み（H20年度末） ・2つの温泉（田代元湯、田代新湯）と交渉中 ・家屋移転は発生しない</td><td>○</td></tr><tr><td>関係する河川使用者の同意の見通しはどうか</td><td>・多目的ダムとして認知されており、同意が得られると想定される。</td><td>○</td></tr><tr><td>発電を目的として事業に参画している者への影響の程度はどうか</td><td>・影響はない（流況が安定し、既設発電所の発電効率がある）。</td><td>○</td></tr><tr><td rowspan="4">環境への影響</td><td>その他の関係者との調整の見通しはどうか</td><td>・国有林野内でのダム建設については、林野庁国有林野利活用委員会より了解を得ている。 ・国立公園内でのダム建設については、環境省より許可を得ている。</td><td>○</td></tr><tr><td>法制度上の観点から実現性の見通しはどうか</td><td>・H13.10.10： 堤川水系河川整備基本方針の策定 ・H16.12.6： 駒込ダム全体計画の承認 ・H17.1.17： 堤川水系河川整備計画の策定</td><td>○</td></tr><tr><td>技術上の観点から実現性の見通しはどうか</td><td>・実現可能</td><td>○</td></tr><tr><td>将来にわたって持続可能といえるか</td><td>・計画堆砂量を適正に見込むことで持続可能</td><td>○</td></tr><tr><td rowspan="4">地域振興 に対する 影響</td><td>事業地及びその周辺への影響はどの程度か</td><td>・整備計画策定にあたり懇談会を実施している。 ・環境面について配慮されており、モニタリングも継続中。</td><td>○</td></tr><tr><td>地域振興に対してどのような効果があるか</td><td>・現状とほとんど変わらない</td><td>○</td></tr><tr><td>地域間の利害の衝突への配慮がなされているか</td><td>・水没する家屋はないため、地域間の不均衡はない。</td><td>○</td></tr><tr><td rowspan="4">環境への影響</td><td>水環境に対してどのような影響があるか</td><td>・正常流量を確保することで、全区間で流水の清潔の保持が図れる。</td><td>○</td></tr><tr><td>地下水位、地盤沈下や地下水の塩水化にどのような影響があるか</td><td>・影響なし</td><td>○</td></tr><tr><td>生物の多様性の確保及び流域の自然環境全体にどのような影響があるか</td><td>・環境アセスメントに準じた調査を行っており、自然環境への影響が少ないことを確認している。</td><td>○</td></tr><tr><td>景観、人と自然との豊かなふれあいにどのような影響があるか</td><td>・ダム湖が整備されるため、新たな景観が形成される（但し、観光地化する予定はない）。 ・正常流量が確保されることにより、下流河川で良好な景観が確保できる。</td><td>○</td></tr><tr><td rowspan="4">評価軸</td><td>CO2排出負荷はどう変わるか</td><td>・現状とダム完成後で特に変化はないと想定される。</td><td>○</td></tr><tr><td>その他</td><td>・特になし</td><td>－</td></tr></table>	評価軸	評価の考え方	ダム（駒込ダム）案		目標	河川整備計画レベルの目標に対し必要量を確保できるか	・可 能	○	段階的にどのように効果が確保されていくのか	・ダム完成後に効果が確保される。	○	どの範囲でどのような効果が確保されていくのか（取水位置別に、取水可能量がどのように確保されるか）	・駒込川における補給対象区間の全区間（A、B区間）	○	どのような水質の用水が得られるか	・酸性水 （ダム上流に強酸性の支川があるため）	－	コスト	完成までに要する費用はどのくらいか	ダム事業費（不特定分）：144.0億円 H22年度末残事業費（不特定分）：119.6億円	①	維持管理に要する費用はどのくらいか	維持管理費（50年分）：36.1億円 （事業費の0.5%として計上）	①	実現性	その他の費用（ダム中止に伴って発生する費用等）はどのくらいか	【ダム中止に伴い発生する費用等】 ・なし 【その他の費用】 ・なし	○	土地所有者等の協力の見通しはどうか	・用地の8.6%が買収済み（H20年度末） ・2つの温泉（田代元湯、田代新湯）と交渉中 ・家屋移転は発生しない	○	関係する河川使用者の同意の見通しはどうか	・多目的ダムとして認知されており、同意が得られると想定される。	○	発電を目的として事業に参画している者への影響の程度はどうか	・影響はない（流況が安定し、既設発電所の発電効率がある）。	○	環境への影響	その他の関係者との調整の見通しはどうか	・国有林野内でのダム建設については、林野庁国有林野利活用委員会より了解を得ている。 ・国立公園内でのダム建設については、環境省より許可を得ている。	○	法制度上の観点から実現性の見通しはどうか	・H13.10.10： 堤川水系河川整備基本方針の策定 ・H16.12.6： 駒込ダム全体計画の承認 ・H17.1.17： 堤川水系河川整備計画の策定	○	技術上の観点から実現性の見通しはどうか	・実現可能	○	将来にわたって持続可能といえるか	・計画堆砂量を適正に見込むことで持続可能	○	地域振興 に対する 影響	事業地及びその周辺への影響はどの程度か	・整備計画策定にあたり懇談会を実施している。 ・環境面について配慮されており、モニタリングも継続中。	○	地域振興に対してどのような効果があるか	・現状とほとんど変わらない	○	地域間の利害の衝突への配慮がなされているか	・水没する家屋はないため、地域間の不均衡はない。	○	環境への影響	水環境に対してどのような影響があるか	・正常流量を確保することで、全区間で流水の清潔の保持が図れる。	○	地下水位、地盤沈下や地下水の塩水化にどのような影響があるか	・影響なし	○	生物の多様性の確保及び流域の自然環境全体にどのような影響があるか	・環境アセスメントに準じた調査を行っており、自然環境への影響が少ないことを確認している。	○	景観、人と自然との豊かなふれあいにどのような影響があるか	・ダム湖が整備されるため、新たな景観が形成される（但し、観光地化する予定はない）。 ・正常流量が確保されることにより、下流河川で良好な景観が確保できる。	○	評価軸	CO2排出負荷はどう変わるか	・現状とダム完成後で特に変化はないと想定される。	○	その他	・特になし	－
			評価軸	評価の考え方	ダム（駒込ダム）案																																																																																																																																																															
目標	河川整備計画レベルの目標に対し必要量を確保できるか	・可 能	○																																																																																																																																																																	
	段階的にどのように効果が確保されていくのか	・ダム完成後に効果が確保される。	○																																																																																																																																																																	
	どの範囲でどのような効果が確保されていくのか（取水位置別に、取水可能量がどのように確保されるか）	・駒込川における補給対象区間の全区間（A、B区間）	○																																																																																																																																																																	
	どのような水質の用水が得られるか	・酸性水 （ダム上流に強酸性の支川があるため）	－																																																																																																																																																																	
コスト	完成までに要する費用はどのくらいか	ダム事業費（不特定分）：144.0億円 H22年度末残事業費（不特定分）：119.9億円	①																																																																																																																																																																	
	維持管理に要する費用はどのくらいか	維持管理費（50年分）：36.1億円 （事業費の0.5%として計上）	①																																																																																																																																																																	
実現性	その他の費用（ダム中止に伴って発生する費用等）はどのくらいか	【ダム中止に伴い発生する費用等】 ・なし 【その他の費用】 ・なし	○																																																																																																																																																																	
	土地所有者等の協力の見通しはどうか	・用地の8.6%が買収済み（H20年度末） ・2つの温泉（田代元湯、田代新湯）と交渉中 ・家屋移転は発生しない	○																																																																																																																																																																	
	関係する河川使用者の同意の見通しはどうか	・多目的ダムとして認知されており、同意が得られると想定される。	○																																																																																																																																																																	
	発電を目的として事業に参画している者への影響の程度はどうか	・影響はない（流況が安定し、既設発電所の発電効率がある）。	○																																																																																																																																																																	
環境への影響	その他の関係者との調整の見通しはどうか	・国有林野内でのダム建設については、林野庁国有林野利活用委員会より了解を得ている。 ・国立公園内でのダム建設については、環境省より許可を得ている。	○																																																																																																																																																																	
	法制度上の観点から実現性の見通しはどうか	・H13.10.10： 堤川水系河川整備基本方針の策定 ・H16.12.6： 駒込ダム全体計画の承認 ・H17.1.17： 堤川水系河川整備計画の策定	○																																																																																																																																																																	
	技術上の観点から実現性の見通しはどうか	・実現可能	○																																																																																																																																																																	
	将来にわたって持続可能といえるか	・計画堆砂量を適正に見込むことで持続可能	○																																																																																																																																																																	
地域振興 に対する 影響	事業地及びその周辺への影響はどの程度か	・整備計画策定にあたり懇談会を実施している。 ・環境面について配慮されており、モニタリングも継続中。	○																																																																																																																																																																	
	地域振興に対してどのような効果があるか	・現状とほとんど変わらない	○																																																																																																																																																																	
	地域間の利害の衝突への配慮がなされているか	・水没する家屋はないため、地域間の不均衡はない。	○																																																																																																																																																																	
	環境への影響	水環境に対してどのような影響があるか	・正常流量を確保することで、全区間で流水の清潔の保持が図れる。	○																																																																																																																																																																
地下水位、地盤沈下や地下水の塩水化にどのような影響があるか		・影響なし	○																																																																																																																																																																	
生物の多様性の確保及び流域の自然環境全体にどのような影響があるか		・環境アセスメントに準じた調査を行っており、自然環境への影響が少ないことを確認している。	○																																																																																																																																																																	
景観、人と自然との豊かなふれあいにどのような影響があるか		・ダム湖が整備されるため、新たな景観が形成される（但し、観光地化する予定はない）。 ・正常流量が確保されることにより、下流河川で良好な景観が確保できる。	○																																																																																																																																																																	
評価軸	CO2排出負荷はどう変わるか	・現状とダム完成後で特に変化はないと想定される。	○																																																																																																																																																																	
	その他	・特になし	－																																																																																																																																																																	
	評価軸	評価の考え方	ダム（駒込ダム）案																																																																																																																																																																	
	目標	河川整備計画レベルの目標に対し必要量を確保できるか	・可 能	○																																																																																																																																																																
段階的にどのように効果が確保されていくのか		・ダム完成後に効果が確保される。	○																																																																																																																																																																	
どの範囲でどのような効果が確保されていくのか（取水位置別に、取水可能量がどのように確保されるか）		・駒込川における補給対象区間の全区間（A、B区間）	○																																																																																																																																																																	
どのような水質の用水が得られるか		・酸性水 （ダム上流に強酸性の支川があるため）	－																																																																																																																																																																	
コスト	完成までに要する費用はどのくらいか	ダム事業費（不特定分）：144.0億円 H22年度末残事業費（不特定分）：119.6億円	①																																																																																																																																																																	
	維持管理に要する費用はどのくらいか	維持管理費（50年分）：36.1億円 （事業費の0.5%として計上）	①																																																																																																																																																																	
実現性	その他の費用（ダム中止に伴って発生する費用等）はどのくらいか	【ダム中止に伴い発生する費用等】 ・なし 【その他の費用】 ・なし	○																																																																																																																																																																	
	土地所有者等の協力の見通しはどうか	・用地の8.6%が買収済み（H20年度末） ・2つの温泉（田代元湯、田代新湯）と交渉中 ・家屋移転は発生しない	○																																																																																																																																																																	
	関係する河川使用者の同意の見通しはどうか	・多目的ダムとして認知されており、同意が得られると想定される。	○																																																																																																																																																																	
	発電を目的として事業に参画している者への影響の程度はどうか	・影響はない（流況が安定し、既設発電所の発電効率がある）。	○																																																																																																																																																																	
環境への影響	その他の関係者との調整の見通しはどうか	・国有林野内でのダム建設については、林野庁国有林野利活用委員会より了解を得ている。 ・国立公園内でのダム建設については、環境省より許可を得ている。	○																																																																																																																																																																	
	法制度上の観点から実現性の見通しはどうか	・H13.10.10： 堤川水系河川整備基本方針の策定 ・H16.12.6： 駒込ダム全体計画の承認 ・H17.1.17： 堤川水系河川整備計画の策定	○																																																																																																																																																																	
	技術上の観点から実現性の見通しはどうか	・実現可能	○																																																																																																																																																																	
	将来にわたって持続可能といえるか	・計画堆砂量を適正に見込むことで持続可能	○																																																																																																																																																																	
地域振興 に対する 影響	事業地及びその周辺への影響はどの程度か	・整備計画策定にあたり懇談会を実施している。 ・環境面について配慮されており、モニタリングも継続中。	○																																																																																																																																																																	
	地域振興に対してどのような効果があるか	・現状とほとんど変わらない	○																																																																																																																																																																	
	地域間の利害の衝突への配慮がなされているか	・水没する家屋はないため、地域間の不均衡はない。	○																																																																																																																																																																	
	環境への影響	水環境に対してどのような影響があるか	・正常流量を確保することで、全区間で流水の清潔の保持が図れる。	○																																																																																																																																																																
地下水位、地盤沈下や地下水の塩水化にどのような影響があるか		・影響なし	○																																																																																																																																																																	
生物の多様性の確保及び流域の自然環境全体にどのような影響があるか		・環境アセスメントに準じた調査を行っており、自然環境への影響が少ないことを確認している。	○																																																																																																																																																																	
景観、人と自然との豊かなふれあいにどのような影響があるか		・ダム湖が整備されるため、新たな景観が形成される（但し、観光地化する予定はない）。 ・正常流量が確保されることにより、下流河川で良好な景観が確保できる。	○																																																																																																																																																																	
評価軸	CO2排出負荷はどう変わるか	・現状とダム完成後で特に変化はないと想定される。	○																																																																																																																																																																	
	その他	・特になし	－																																																																																																																																																																	
			<table><tr><td>評価軸</td><td>評価の考え方</td><td>不特定単独ダム案</td><td></td></tr><tr><td rowspan="4">目標</td><td>河川整備計画レベルの目標に対し必要量を確保できるか</td><td>・同 左</td><td>○</td></tr><tr><td>段階的にどのように効果が確保されていくのか</td><td>・同 左</td><td>○</td></tr><tr><td>どの範囲でどのような効果が確保されていくのか（取水位置別に、取水可能量がどのように確保されるか）</td><td>・同 左</td><td>○</td></tr><tr><td>どのような水質の用水が得られるか</td><td>・同 左</td><td>－</td></tr><tr><td rowspan="2">コスト</td><td>完成までに要する費用はどのくらいか</td><td>不特定身替わり建設費：197.0億円</td><td>②</td></tr><tr><td>維持管理に要する費用はどのくらいか</td><td>維持管理費（50年分）：49.3億円 （事業費の0.5%として計上）</td><td>②</td></tr><tr><td rowspan="4">実現性</td><td>その他の費用（ダム中止に伴って発生する費用等）はどのくらいか</td><td>【ダム中止に伴い発生する費用等】 ・ダム案に替わる治水対策費 ・本体設計、施工計画等の修正費用 ・工事用道路の改良 【その他の費用】 ・なし</td><td>×</td></tr><tr><td>土地所有者等の協力の見通しはどうか</td><td>・不特定単独ダムは、駒込ダムサイトと同位置に建設することとなるため、現計画である多目的ダム案と同様とする。</td><td>○</td></tr><tr><td>関係する河川使用者の同意の見通しはどうか</td><td>・多目的ダムとして認知されているため、同意が得られると想定される。</td><td>○</td></tr><tr><td>発電を目的として事業に参画している者への影響の程度はどうか</td><td>・影響はない（流況が安定し、既設発電所の発電効率がある）。</td><td>○</td></tr><tr><td rowspan="4">環境への影響</td><td>その他の関係者との調整の見通しはどうか</td><td>・左記のとおり、多目的ダムとして了解・許可されているため、問題ないと想定されるが、林野庁および環境省に対して新たな事業説明をする必要がある。</td><td>○</td></tr><tr><td>法制度上の観点から実現性の見通しはどうか</td><td>・河川整備基本方針・整備計画の変更がともなう。 ・ダム全体計画の変更がともなう。</td><td>○</td></tr><tr><td>技術上の観点から実現性の見通しはどうか</td><td>・同 左</td><td>○</td></tr><tr><td>将来にわたって持続可能といえるか</td><td>・同 左</td><td>○</td></tr><tr><td rowspan="4">地域振興 に対する 影響</td><td>事業地及びその周辺への影響はどの程度か</td><td>・ダムに替わる治水対策も含め新たに説明会等を開く等、地元住民との合意形成を図る必要がある。</td><td>○</td></tr><tr><td>地域振興に対してどのような効果があるか</td><td>・現状とほとんど変わらない</td><td>○</td></tr><tr><td>地域間の利害の衝突への配慮がなされているか</td><td>・同 左</td><td>○</td></tr><tr><td rowspan="4">環境への影響</td><td>水環境に対してどのような影響があるか</td><td>・正常流量を確保することで、全区間で流水の清潔の保持が図れる。</td><td>○</td></tr><tr><td>地下水位、地盤沈下や地下水の塩水化にどのような影響があるか</td><td>・同 左</td><td>○</td></tr><tr><td>生物の多様性の確保及び流域の自然環境全体にどのような影響があるか</td><td>・ダムに替わる治水対策における環境アセスメントを実施する必要がある。</td><td>○</td></tr><tr><td>景観、人と自然との豊かなふれあいにどのような影響があるか</td><td>・同 左</td><td>○</td></tr><tr><td rowspan="2">評価軸</td><td>CO2排出負荷はどう変わるか</td><td>・同 左</td><td>○</td></tr><tr><td>その他</td><td>・特になし</td><td>－</td></tr></table>	評価軸	評価の考え方	不特定単独ダム案		目標	河川整備計画レベルの目標に対し必要量を確保できるか	・同 左	○	段階的にどのように効果が確保されていくのか	・同 左	○	どの範囲でどのような効果が確保されていくのか（取水位置別に、取水可能量がどのように確保されるか）	・同 左	○	どのような水質の用水が得られるか	・同 左	－	コスト	完成までに要する費用はどのくらいか	不特定身替わり建設費：197.0億円	②	維持管理に要する費用はどのくらいか	維持管理費（50年分）：49.3億円 （事業費の0.5%として計上）	②	実現性	その他の費用（ダム中止に伴って発生する費用等）はどのくらいか	【ダム中止に伴い発生する費用等】 ・ダム案に替わる治水対策費 ・本体設計、施工計画等の修正費用 ・工事用道路の改良 【その他の費用】 ・なし	×	土地所有者等の協力の見通しはどうか	・不特定単独ダムは、駒込ダムサイトと同位置に建設することとなるため、現計画である多目的ダム案と同様とする。	○	関係する河川使用者の同意の見通しはどうか	・多目的ダムとして認知されているため、同意が得られると想定される。	○	発電を目的として事業に参画している者への影響の程度はどうか	・影響はない（流況が安定し、既設発電所の発電効率がある）。	○	環境への影響	その他の関係者との調整の見通しはどうか	・左記のとおり、多目的ダムとして了解・許可されているため、問題ないと想定されるが、林野庁および環境省に対して新たな事業説明をする必要がある。	○	法制度上の観点から実現性の見通しはどうか	・河川整備基本方針・整備計画の変更がともなう。 ・ダム全体計画の変更がともなう。	○	技術上の観点から実現性の見通しはどうか	・同 左	○	将来にわたって持続可能といえるか	・同 左	○	地域振興 に対する 影響	事業地及びその周辺への影響はどの程度か	・ダムに替わる治水対策も含め新たに説明会等を開く等、地元住民との合意形成を図る必要がある。	○	地域振興に対してどのような効果があるか	・現状とほとんど変わらない	○	地域間の利害の衝突への配慮がなされているか	・同 左	○	環境への影響	水環境に対してどのような影響があるか	・正常流量を確保することで、全区間で流水の清潔の保持が図れる。	○	地下水位、地盤沈下や地下水の塩水化にどのような影響があるか	・同 左	○	生物の多様性の確保及び流域の自然環境全体にどのような影響があるか	・ダムに替わる治水対策における環境アセスメントを実施する必要がある。	○	景観、人と自然との豊かなふれあいにどのような影響があるか	・同 左	○	評価軸	CO2排出負荷はどう変わるか	・同 左	○	その他	・特になし	－	<table><tr><td>評価軸</td><td>評価の考え方</td><td>不特定単独ダム案</td><td></td></tr><tr><td rowspan="4">目標</td><td>河川整備計画レベルの目標に対し必要量を確保できるか</td><td>・同 左</td><td>○</td></tr><tr><td>段階的にどのように効果が確保されていくのか</td><td>・同 左</td><td>○</td></tr><tr><td>どの範囲でどのような効果が確保されていくのか（取水位置別に、取水可能量がどのように確保されるか）</td><td>・同 左</td><td>○</td></tr><tr><td>どのような水質の用水が得られるか</td><td>・同 左</td><td>－</td></tr><tr><td rowspan="2">コスト</td><td>完成までに要する費用はどのくらいか</td><td>不特定身替わり建設費：197.0億円</td><td>②</td></tr><tr><td>維持管理に要する費用はどのくらいか</td><td>維持管理費（50年分）：49.3億円 （事業費の0.5%として計上）</td><td>②</td></tr><tr><td rowspan="4">実現性</td><td>その他の費用（ダム中止に伴って発生する費用等）はどのくらいか</td><td>【ダム中止に伴い発生する費用等】 ・ダム案に替わる治水対策費 ・本体設計、施工計画等の修正費用 ・工事用道路の改良 【その他の費用】 ・なし</td><td>×</td></tr><tr><td>土地所有者等の協力の見通しはどうか</td><td>・不特定単独ダムは、駒込ダムサイトと同位置に建設することとなるため、現計画である多目的ダム案と同様とする。</td><td>○</td></tr><tr><td>関係する河川使用者の同意の見通しはどうか</td><td>・多目的ダムとして認知されているため、同意が得られると想定される。</td><td>○</td></tr><tr><td>発電を目的として事業に参画している者への影響の程度はどうか</td><td>・影響はない（流況が安定し、既設発電所の発電効率がある）。</td><td>○</td></tr><tr><td rowspan="4">環境への影響</td><td>その他の関係者との調整の見通しはどうか</td><td>・左記のとおり、多目的ダムとして了解・許可されているため、問題ないと想定されるが、林野庁および環境省に対して新たな事業説明をする必要がある。</td><td>○</td></tr><tr><td>法制度上の観点から実現性の見通しはどうか</td><td>・河川整備基本方針・整備計画の変更がともなう。 ・ダム全体計画の変更がともなう。</td><td>○</td></tr><tr><td>技術上の観点から実現性の見通しはどうか</td><td>・同 左</td><td>○</td></tr><tr><td>将来にわたって持続可能といえるか</td><td>・同 左</td><td>○</td></tr><tr><td rowspan="4">地域振興 に対する 影響</td><td>事業地及びその周辺への影響はどの程度か</td><td>・ダムに替わる治水対策も含め新たに説明会等を開く等、地元住民との合意形成を図る必要がある。</td><td>○</td></tr><tr><td>地域振興に対してどのような効果があるか</td><td>・現状とほとんど変わらない</td><td>○</td></tr><tr><td>地域間の利害の衝突への配慮がなされているか</td><td>・同 左</td><td>○</td></tr><tr><td rowspan="4">環境への影響</td><td>水環境に対してどのような影響があるか</td><td>・正常流量を確保することで、全区間で流水の清潔の保持が図れる。</td><td>○</td></tr><tr><td>地下水位、地盤沈下や地下水の塩水化にどのような影響があるか</td><td>・同 左</td><td>○</td></tr><tr><td>生物の多様性の確保及び流域の自然環境全体にどのような影響があるか</td><td>・ダムに替わる治水対策における環境アセスメントを実施する必要がある。</td><td>○</td></tr><tr><td>景観、人と自然との豊かなふれあいにどのような影響があるか</td><td>・同 左</td><td>○</td></tr><tr><td rowspan="2">評価軸</td><td>CO2排出負荷はどう変わるか</td><td>・同 左</td><td>○</td></tr><tr><td>その他</td><td>・特になし</td><td>－</td></tr></table>	評価軸	評価の考え方	不特定単独ダム案		目標	河川整備計画レベルの目標に対し必要量を確保できるか	・同 左	○	段階的にどのように効果が確保されていくのか	・同 左	○	どの範囲でどのような効果が確保されていくのか（取水位置別に、取水可能量がどのように確保されるか）	・同 左	○	どのような水質の用水が得られるか	・同 左	－	コスト	完成までに要する費用はどのくらいか	不特定身替わり建設費：197.0億円	②	維持管理に要する費用はどのくらいか	維持管理費（50年分）：49.3億円 （事業費の0.5%として計上）	②	実現性	その他の費用（ダム中止に伴って発生する費用等）はどのくらいか	【ダム中止に伴い発生する費用等】 ・ダム案に替わる治水対策費 ・本体設計、施工計画等の修正費用 ・工事用道路の改良 【その他の費用】 ・なし	×	土地所有者等の協力の見通しはどうか	・不特定単独ダムは、駒込ダムサイトと同位置に建設することとなるため、現計画である多目的ダム案と同様とする。	○	関係する河川使用者の同意の見通しはどうか	・多目的ダムとして認知されているため、同意が得られると想定される。	○	発電を目的として事業に参画している者への影響の程度はどうか	・影響はない（流況が安定し、既設発電所の発電効率がある）。	○	環境への影響	その他の関係者との調整の見通しはどうか	・左記のとおり、多目的ダムとして了解・許可されているため、問題ないと想定されるが、林野庁および環境省に対して新たな事業説明をする必要がある。	○	法制度上の観点から実現性の見通しはどうか	・河川整備基本方針・整備計画の変更がともなう。 ・ダム全体計画の変更がともなう。	○	技術上の観点から実現性の見通しはどうか	・同 左	○	将来にわたって持続可能といえるか	・同 左	○	地域振興 に対する 影響	事業地及びその周辺への影響はどの程度か	・ダムに替わる治水対策も含め新たに説明会等を開く等、地元住民との合意形成を図る必要がある。	○	地域振興に対してどのような効果があるか	・現状とほとんど変わらない	○	地域間の利害の衝突への配慮がなされているか	・同 左	○	環境への影響	水環境に対してどのような影響があるか	・正常流量を確保することで、全区間で流水の清潔の保持が図れる。	○	地下水位、地盤沈下や地下水の塩水化にどのような影響があるか	・同 左	○	生物の多様性の確保及び流域の自然環境全体にどのような影響があるか	・ダムに替わる治水対策における環境アセスメントを実施する必要がある。	○	景観、人と自然との豊かなふれあいにどのような影響があるか	・同 左	○	評価軸	CO2排出負荷はどう変わるか	・同 左	○	その他	・特になし	－
	評価軸	評価の考え方	不特定単独ダム案																																																																																																																																																																	
目標	河川整備計画レベルの目標に対し必要量を確保できるか	・同 左	○																																																																																																																																																																	
	段階的にどのように効果が確保されていくのか	・同 左	○																																																																																																																																																																	
	どの範囲でどのような効果が確保されていくのか（取水位置別に、取水可能量がどのように確保されるか）	・同 左	○																																																																																																																																																																	
	どのような水質の用水が得られるか	・同 左	－																																																																																																																																																																	
コスト	完成までに要する費用はどのくらいか	不特定身替わり建設費：197.0億円	②																																																																																																																																																																	
	維持管理に要する費用はどのくらいか	維持管理費（50年分）：49.3億円 （事業費の0.5%として計上）	②																																																																																																																																																																	
実現性	その他の費用（ダム中止に伴って発生する費用等）はどのくらいか	【ダム中止に伴い発生する費用等】 ・ダム案に替わる治水対策費 ・本体設計、施工計画等の修正費用 ・工事用道路の改良 【その他の費用】 ・なし	×																																																																																																																																																																	
	土地所有者等の協力の見通しはどうか	・不特定単独ダムは、駒込ダムサイトと同位置に建設することとなるため、現計画である多目的ダム案と同様とする。	○																																																																																																																																																																	
	関係する河川使用者の同意の見通しはどうか	・多目的ダムとして認知されているため、同意が得られると想定される。	○																																																																																																																																																																	
	発電を目的として事業に参画している者への影響の程度はどうか	・影響はない（流況が安定し、既設発電所の発電効率がある）。	○																																																																																																																																																																	
環境への影響	その他の関係者との調整の見通しはどうか	・左記のとおり、多目的ダムとして了解・許可されているため、問題ないと想定されるが、林野庁および環境省に対して新たな事業説明をする必要がある。	○																																																																																																																																																																	
	法制度上の観点から実現性の見通しはどうか	・河川整備基本方針・整備計画の変更がともなう。 ・ダム全体計画の変更がともなう。	○																																																																																																																																																																	
	技術上の観点から実現性の見通しはどうか	・同 左	○																																																																																																																																																																	
	将来にわたって持続可能といえるか	・同 左	○																																																																																																																																																																	
地域振興 に対する 影響	事業地及びその周辺への影響はどの程度か	・ダムに替わる治水対策も含め新たに説明会等を開く等、地元住民との合意形成を図る必要がある。	○																																																																																																																																																																	
	地域振興に対してどのような効果があるか	・現状とほとんど変わらない	○																																																																																																																																																																	
	地域間の利害の衝突への配慮がなされているか	・同 左	○																																																																																																																																																																	
	環境への影響	水環境に対してどのような影響があるか	・正常流量を確保することで、全区間で流水の清潔の保持が図れる。	○																																																																																																																																																																
地下水位、地盤沈下や地下水の塩水化にどのような影響があるか		・同 左	○																																																																																																																																																																	
生物の多様性の確保及び流域の自然環境全体にどのような影響があるか		・ダムに替わる治水対策における環境アセスメントを実施する必要がある。	○																																																																																																																																																																	
景観、人と自然との豊かなふれあいにどのような影響があるか		・同 左	○																																																																																																																																																																	
評価軸	CO2排出負荷はどう変わるか	・同 左	○																																																																																																																																																																	
	その他	・特になし	－																																																																																																																																																																	
評価軸	評価の考え方	不特定単独ダム案																																																																																																																																																																		
目標	河川整備計画レベルの目標に対し必要量を確保できるか	・同 左	○																																																																																																																																																																	
	段階的にどのように効果が確保されていくのか	・同 左	○																																																																																																																																																																	
	どの範囲でどのような効果が確保されていくのか（取水位置別に、取水可能量がどのように確保されるか）	・同 左	○																																																																																																																																																																	
	どのような水質の用水が得られるか	・同 左	－																																																																																																																																																																	
コスト	完成までに要する費用はどのくらいか	不特定身替わり建設費：197.0億円	②																																																																																																																																																																	
	維持管理に要する費用はどのくらいか	維持管理費（50年分）：49.3億円 （事業費の0.5%として計上）	②																																																																																																																																																																	
実現性	その他の費用（ダム中止に伴って発生する費用等）はどのくらいか	【ダム中止に伴い発生する費用等】 ・ダム案に替わる治水対策費 ・本体設計、施工計画等の修正費用 ・工事用道路の改良 【その他の費用】 ・なし	×																																																																																																																																																																	
	土地所有者等の協力の見通しはどうか	・不特定単独ダムは、駒込ダムサイトと同位置に建設することとなるため、現計画である多目的ダム案と同様とする。	○																																																																																																																																																																	
	関係する河川使用者の同意の見通しはどうか	・多目的ダムとして認知されているため、同意が得られると想定される。	○																																																																																																																																																																	
	発電を目的として事業に参画している者への影響の程度はどうか	・影響はない（流況が安定し、既設発電所の発電効率がある）。	○																																																																																																																																																																	
環境への影響	その他の関係者との調整の見通しはどうか	・左記のとおり、多目的ダムとして了解・許可されているため、問題ないと想定されるが、林野庁および環境省に対して新たな事業説明をする必要がある。	○																																																																																																																																																																	
	法制度上の観点から実現性の見通しはどうか	・河川整備基本方針・整備計画の変更がともなう。 ・ダム全体計画の変更がともなう。	○																																																																																																																																																																	
	技術上の観点から実現性の見通しはどうか	・同 左	○																																																																																																																																																																	
	将来にわたって持続可能といえるか	・同 左	○																																																																																																																																																																	
地域振興 に対する 影響	事業地及びその周辺への影響はどの程度か	・ダムに替わる治水対策も含め新たに説明会等を開く等、地元住民との合意形成を図る必要がある。	○																																																																																																																																																																	
	地域振興に対してどのような効果があるか	・現状とほとんど変わらない	○																																																																																																																																																																	
	地域間の利害の衝突への配慮がなされているか	・同 左	○																																																																																																																																																																	
	環境への影響	水環境に対してどのような影響があるか	・正常流量を確保することで、全区間で流水の清潔の保持が図れる。	○																																																																																																																																																																
地下水位、地盤沈下や地下水の塩水化にどのような影響があるか		・同 左	○																																																																																																																																																																	
生物の多様性の確保及び流域の自然環境全体にどのような影響があるか		・ダムに替わる治水対策における環境アセスメントを実施する必要がある。	○																																																																																																																																																																	
景観、人と自然との豊かなふれあいにどのような影響があるか		・同 左	○																																																																																																																																																																	
評価軸	CO2排出負荷はどう変わるか	・同 左	○																																																																																																																																																																	
	その他	・特になし	－																																																																																																																																																																	

駒込ダム建設事業の検証に係る検討 結果報告書 （平成 23 年 5 月） 正誤表

章	ページ	箇所	誤						正							
4	4-58	表-4. 6. 1 治水対策案＋流水の 正常な機能の維持に 係る対策案 コスト比較表	目 的	実施内容	ダム＋河道掘削案 (H22年度末残事業費)	遊水地 ＋河道掘削案	放水路 ＋河道掘削案	引堤 ＋河道掘削案	堤防嵩上げ＋河道掘削 ＋排水機場案	目 的	実施内容	ダム＋河道掘削案 (H22年度末残事業費)	遊水地 ＋河道掘削案	放水路 ＋河道掘削案	引堤 ＋河道掘削案	堤防嵩上げ＋河道掘削 ＋排水機場案
			治水対策	洪水調節施設	252.9億円	562.0億円	904.0億円	—	—	治水対策	洪水調節施設	253.0億円	562.0億円	904.0億円	—	—
				河道改修費	11.3億円	11.3億円	11.3億円	1,000.5億円	322.6億円		河道改修費	11.3億円	11.3億円	11.3億円	1,000.5億円	322.6億円
				排水機場	—	—	—	—	124.3億円		排水機場	—	—	—	—	124.3億円
				①治水対策費	264.2億円	573.3億円	915.3億円	1,000.5億円	446.9億円		①治水対策費	264.3億円	573.3億円	915.3億円	1,000.5億円	446.9億円
			流水の正常な機能の維持(不特定)	ダム建設費(不特定分)	119.9億円	197.0億円	197.0億円	197.0億円	197.0億円	流水の正常な機能の維持(不特定)	ダム建設費(不特定分)	119.6億円	197.0億円	197.0億円	197.0億円	197.0億円
				②流水の正常な機能の維持対策費	119.9億円	197.0億円	197.0億円	197.0億円	197.0億円		②流水の正常な機能の維持対策費	119.6億円	197.0億円	197.0億円	197.0億円	197.0億円
			③対策費合計(①＋②)		384.1億円	770.3億円	1,112.3億円	1,197.5億円	643.9億円	③対策費合計(①＋②)		383.9億円	770.3億円	1,112.3億円	1,197.5億円	643.9億円
			④維持管理費:50年分		115.1億円	192.6億円	278.1億円	299.4億円	161.0億円	④維持管理費:50年分		115.1億円	192.6億円	278.1億円	299.4億円	161.0億円
			⑤その他の費用(ダムを中止した時の費用)		—	20.2億円	20.2億円	20.2億円	20.2億円	⑤その他の費用(ダムを中止した時の費用)		—	20.2億円	20.2億円	20.2億円	20.2億円
			総費用(③＋④＋⑤)		499.2億円	983.1億円	1,410.6億円	1,517.1億円	825.1億円	総費用(③＋④＋⑤)		499.0億円	983.1億円	1,410.6億円	1,517.1億円	825.1億円
			5	5-8	関係住民説明会における主な意見 No. 2 に対する県の考え方	平成 11 年 10 月 28 日の大雨は、最大時間雨量 32mm/hr、平成 19 年 11 月 12 日の大雨は最大時間雨量 41mm/hr というものでした。 これらの大雨により堤川流域のみならず、青森市内の各所で道路側溝が溢れるなど内水による浸水被害が多発しました。 青森市では、以前より整備を進めていた奥野第三ポンプ場雨水ポンプ施設の完成を 1 年早め、平成 21 年 4 月供用開始するとともに、その他地区の雨水対策についても順次着手しており、これが完成されれば平成 12 年、19 年当時の大雨が発生したとしても浸水被害は大幅に緩和されることになります。						平成 11 年 10 月 28 日の大雨は、最大時間雨量 32mm/hr、平成 19 年 11 月 12 日の大雨は最大時間雨量 41mm/hr というものでした。 これらの大雨により堤川流域のみならず、青森市内の各所で道路側溝が溢れるなど内水による浸水被害が多発しました。 青森市では、以前より整備を進めていた奥野第三ポンプ場雨水ポンプ施設の完成を 1 年早め、平成 21 年 4 月供用開始するとともに、その他地区の雨水対策についても順次着手しており、これが完成されれば平成 11 年、19 年当時の大雨が発生したとしても浸水被害は大幅に緩和されることになります。				